

## 平成26年度埼玉県・オハイオ州機械工学系奨学生レポート 1月

### 「ターニングポイント」

あけましておめでとうございます。アメリカの新年は日本ほど祝う行事はなく、平日と変わらない様子でした。大学の方は新学期が始まりました。前学期は IELP コースという英語集中コースに所属しておりましたが、後期からは他の普通の大学生に混じって学部の授業を受けており、新年早々また新しい環境に揉まれています。

#### インターンについて

年明け早々インターン先で昨年度分の仕事の成果を自分たちのオフィスで発表する機会を頂きました。工場内には数十の工作機械がありその内部にまた数個の工具が設置されています。機械内部の工具はドリルやリーマーなど非常に多くの種類があり、またそれらの工具は一つ一つが非常に高価であるにもかかわらず、破損・消耗するものが多くコスト面で問題になっていました。その問題に対処すべく、我々は 8 月から機械の工具寿命について調査を行い、工具のツールタグを回収しデータを分析してきました。ツールタグとは工具を管理するタグのことで、タグにはその工具の寿命や型式番号など詳細が記入してあり、壊れた際はタグに壊れた理由やどれだけ使用したなどといった情報を書き込んで修理に出します。

今回は8月から回収してきた約半年分のタグを元に、データを集計・分析して、どの工具が頻繁に交換されているか、どんな壊れ方が一番多いかなどといったデータをいくつかの工具に絞って発表しました。短い発表だったのですが、エンジニアの方々から好評を頂くことができ、満足の行くものでした。発表後エンジニアの方々と話し合い、データの共有や今後の対策について議論し、我々は問題の工具の改善に注力して行くことが決まりました。しかし改善するにはまだ多くの問題があり、エンジニアの方によると、先は長くなるとのことです。しかしなんとしても帰国するまでに一つの成果を出したいと考えています。